

(甲斐市立竜王西小) 学校 学校関係者評価書

令和 4年 2月 7日 (月)

(甲斐市立竜王西小学校) 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和 4年 2月 4日 (金) 午後 3時～

会 場：甲斐市立竜王西小学校会議室

参加者：(学校関係者評価委員)

学校評議員 高相 治夫 植松 章子

保護者代表 飯窪 美樹

(学校側)

校長 新海 淳 教頭 大石 浩雄

教務主任 丹下 博喜

I 学校側から提案された内容

- ・教職員自己評価結果と考察
- ・児童アンケート結果と考察
- ・保護者アンケート結果と考察
- ・創甲斐教育の数値目標についての結果と考察
- ・課題改善に向けた今後の取組

II 協議された主な内容

- ・保護者が相談しやすい学校づくりについて
- ・児童の学習への意欲とその成果について
- ・将来の夢や希望を持てる指導について
- ・家庭環境と児童の生活習慣について

<学校関係者評価書>

I 全体評価

○教職員自己評価の結果から、学校教育目標の具現化に向けて、やるべき教育活動を、まじめに一生懸命に、チームとして取り組むことができている。GIGAスクールをはじめとした新しい教育課題や新型コロナウイルスの影響で生じた問題について、今後学校全体で取り組んでいく必要がある。

○児童アンケート・保護者アンケートは肯定的な回答が多く、多くの児童は楽しく充実した学校生活を送っている。また、多くの児童・保護者は規則正しい生活を心掛けている。少数であるが、学校とのコミュニケーションに課題を感じている保護者や家庭での過ごし方に課題がある児童に対しては地域や外部機関との連携を含めた指導と支援に継続的に取り組んでいく必要がある。

II 特 徴

○学校教育目標・学校経営については、竜王西小の教育活動の方向性が明確で、校長先生の考えが全職員へ浸透していることがわかる。PDCAサイクルについては、学校や学年の大きな行事については効率的にできているが、授業や学級指導等に関しては、今後さらにPDCAサイクルを充実させていく必要がある。

○新型コロナウイルス感染症に対応しながら、授業参観や学校開放に努めている。こうした機会をいかしながら、さらに保護者と学校が児童のことについて話しやすい環境をつくっていく必要がある。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

○保護者が相談しやすい学校づくりについて

・およそ5人に1人の保護者が、児童について学校に相談することにためらいを感じているというが、保護者の気質やSNS等文字による簡易なコミュニケーションに慣れてしまい直接的な交流に抵抗があるといった背景も考えられる。個人的には、連絡もまめにもらえ、子供の様子もよく見てもらえているので話しやすいと感じている。今後、相談しづらいと感じている保護者が、話しやすくなるような環境づくりを進めてほしい。

○児童の学習への意欲とその成果について

・「国語の授業がわかる」と回答している児童の割合が高いが、「わかる」と「できる」は違うところがある。国語の力はすべての学力の基本となる部分であるので、竜西小児童の「できる」という部分にもしっかりと目を向け、今後も頑張ってもらいたい。

○将来の夢や希望を持てる指導について

・コロナ禍において児童を取り巻く環境は厳しいものがあり、将来への希望や夢といったものが持ちづらい現状がある。学校は、子供達のために色々なことを考えてくれていると感じている。読書により興味が広がり将来の生き方につながることもある。学校内では、読書と実体験を結び付けた活動等も取り組んでいるので、そうした活動をいかしながら児童が読書をした足跡を残していけるようにしてほしい。

○家庭環境と児童の生活習慣について

・家庭における学習時間・ゲームやスマホの利用時間・読書時間が少ない点については、昨年度よりも改善傾向にある。学校の継続的な取組が表れてきているようであるが、一方で朝食を食べないまま登校する児童が5%程度いる等家庭環境が気になるところがまだある。本来は保護者の責任で取り組んでいくところであり、学校として把握していてもなかなか立ち入れない部分もあるかと思うので、地域や外部の力をうまく利用しながら改善への取組を続けてほしい。

※特記事項

特になし

記載責任者（甲斐市立竜王西小学校 学校関係者評価委員） 氏名：飯窪 美樹

